

小中学生がDNA抽出

埼玉大「科学者の芽、育成講座」

抽出したDNAを割り箸ですくい取る参加者たち
さいたま市校区の埼玉大学



さいたま市校区の埼玉大学大学院理工学研究科は、小学5、6年生と中学生を対象に「科学者の芽育成プログラム」ステップ1の第2回土曜ジュニアセミナーを同大で開催し、野菜や果物からDNAを抽出する実験を行った。参加者は2人一組になり、同大の学生の手助けを受けながら、ジャガイモやホウレンソウ、キウイ、オレンジなどからDNAの抽出に挑戦した。よほどのDNAが抽出

できるか、野菜や果物、野菜などをすりおろす器具の選択も参加者がそれぞれ考えた。子どもたちは、野菜などをおろし器やすり鉢などで細かくすりおろし、別に作った抽出液を加え、ネットでろ過する液にエチルアルコールを加えて、DNAを抽出した。

葛飾区立金町小5年の山崎祥佳（しょうか）君は「ホウレンソウを選んだが、一番細かくできそうなので、すり鉢を使った。ろ液に、割り箸を伝わらせてエチルアルコールを入れるのが大変だった」と話していた。

（タウン記者・岡田隆）